

OPINION

中部経済新聞

アフリカ編を要約する感想を追加する。アフリカ圏全体はヨーロッパから文化的、経済的な影響を強く受けている。研修に参加したのはアフリカ北半球の東部と西部中心である。この地理的な位置関係が、各国に大きく影響して

ナビゲーター

いた。エジプトなど東部はイギリスの影響が強く、英語も達者である。他方、西部の国々は、地理的に近いフランスの影響下にある。フランス語に親しみ、英語はたどたどしい。筆者のような英語力のない者にはむしろ親しみがあ

日本への期待 世界各地から

其 54

支援対象から協力関係に

文化面での影響は大きい。例えば、なんらかのまとめを求めると、彼らは文章をつづる。日本のビジネス文書で使われるような図表を使う表示は不得手である。語るのほうまくても、書くとき長い文字の羅列だけが続く。「目で見る管理」を教える日本側としては、当然、図や表を使つてのプレゼンを期待する。

アフリカ圏からの報告振り返る

日本の産業支援や人材育成は「底上げ」方式だと説明し、彼らも一定の理解を示す。だが、グループワークなどでは説明のうまい人に任せようとする。それでは、全体の底上げにつながるかと、われわれは日頃話さない人に発表させようとする。しかし発表者は英語のうまい人であることが多い。それでは、全体を少しでもレベルアップしようとする日本の改善につながるが、ないと説明を加えるのだが、アフリカは欧米の影響下にあり、リーダーが引っぱればとも異なる。

と、なんとなく製造業的なものを想像するが、アフリカの産業は、まず「衣」「食」などの軽工業主体であり、その後続くのはICTや各種のサービス産業である。発展途上国では、基幹産業はまず繊維関連、そして食品加工など軽工業中心である。そして、情報産業関連が続く。

アフリカの発展途上の国々で、ICT・情報系産業の興隆は明らかであり、この分野で国家をあげての支援体制が構築されつつあるように感じられる。企業だけでなく、日常生活にもカイゼンの考え方は適用されるべきという先月の報告者の考え方こそ、最大の学びの一つで、情報系でも

役に立つ。企業経営における継続的な改善の重要性は、これらの産業にも共通だと考える。VEをとおした価値の拡大により大きな焦点が合わさったと象ではなく、日本の競争相手になるように感じられ、協力関係の重要性が感じられた。

【リーム中産連】

(月曜日に掲載)